

とちぎの心をお届けします

②

花き栽培

- ◆ 花き栽培面積 60 アール
- ◆ 従事年数 46 年

雫 昭三さん (那須烏山市)

とちぎ農産物マーケティング協会 花き部会長

美しい花で多くの人を癒したい



「もし、生まれ変わったとしたら何になりたいですか」との問いかけに、「そうだな、あの咲いた時のボリューム感と言葉には言い表せない、あの独特の花弁の美しさを持つユリの花かな」と答えが返るほど、花を愛している雫さん。そんな花に魅了される思いをお話いただきました。

新しいものにチャレンジ

私は20歳で就農し、少しの面積でも高い収入が得られるという思いから、花き栽培に取り組み、1年間篤

農家で研修後独立し今日に至ります。よく皆さんに「花の魅力とは何ですか」と聞かれますが、まずは心を癒してくれること。そして、美しい花を見た場合何とも言えない気持ちになり、その美しさに吸い込まれてしまうことです。さらに自分の栽培した花が高く取引された時には、生産者としての満足感、優越感を味わえます。

ユリ栽培で最大の特徴は、オランダ産の輸入球根を周年で利用し、周年栽培ができるということです。ま

た、品種改良も毎年行われているため、私は毎年5月にオランダの展示会に出向き、新品種の中から日本に向くユリの花を追い求め、常に「新しいものにチャレンジ」を心がけています。

現在の花の需要関係は決して良くありませんが、そんな状況を改善するためにも、消費者の皆さんが花を求めやすい環境を作ることが大切で、消費者と生産者が一体となった花の消費というものを、考えなくてはいけないのかなと思います。花とは「ひとつの安らぎを与えてくれるもの」であって、社会の中にまた暮らしの中に関わっていくのが、本来の花の姿、役割ではないでしょうか。

最後に、40数年間花を栽培してきましたが、「まだまだこれ以上の花を作りたい」という思いがあり、イメージが湧いてきます。頂点を極めるまでは満足できませんし、「一人でも多くの人の心を癒したい」という思いが続く限り、花と向き合い続けていきたいと思っています。

(とちぎ農産物マーケティング協会

事業推進部主任・福田一史)

大地の恵みを産地から



平井 好さん（那須烏山市）

有限会社・平井生花店代表取締役会長
栃木県生花商協同組合理事長
社団法人・日本生花通信配達協会（JFTD）
花キューピット協同組合理事



国会においては「潤いと癒し、喜び、感動」ということで、花き振興法が制定されました。とても素晴らしいことだと思いませんか？
今後は、このような国の支援を活かして生産者、生花店、行政が連携し、お互いに知恵を出し合って、花き業界を盛り上げていきたいと思っています。

生花商

- ◆ 営業年数 41年
- ◆ 2店舗経営（本社とベルモール店）従業員数 15名

流通の多様化、『花産業』に思う

私は、農家の長男として生まれ、子供の頃は稲作を中心に、約2haの農業経営でしたが、安定した収入を得るため、また花が好きだったので、花づくりを始めました。

ハウス面積500坪、露地菊50aで、菊栽培が中心でしたが、8年目で大雹被害を受け、花作りは全滅となってしまい、花づくりを断念しました。その2年後（当時27歳）鹿沼市内に6坪の生花店を開業し、これまで約40年間運営してきました。

現在の花産業は大変様変わりし、流通においても大型資本の企業が参入し、ディスカウントストア、ホームセンター、ネット通販など多種多様な花屋の数も減少するばかりです。全国の花キューピット正会員が、7～8年前は約5000店だったのに比べ、現在では3500店と減少傾向にあります。

専門性を強化、努力の日々

花屋もそれぞれ専門性を強化し、

接客・技術・産地表示・花持ちなどを学び、努力の日々です。そして、組合として、花を通して社会に貢献し、奉仕し、花育事業等を仕掛けていくところです。

また、一方で生産者も大変だと思っています。資材の高騰など、労働人員の高齢化、後継者不足も重なり、生産者も減少傾向にあると思います。今は、格差の時代ではないでしょうか？

生産者においても、花屋においても、お互い情報を共有し、努力して、生き残れる業界でありたいと思います。